

平成26年度 第3回人権教育ミドルリーダー育成講座実施報告

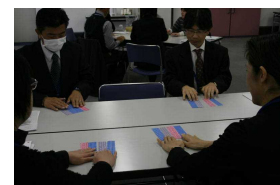
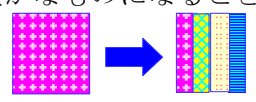
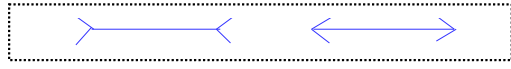
1 期日等	平成26年12月24日(水) 県社会福祉総合センター	
2 参加者	受講者：22名 奈良県都市人権教育担当指導主事：3名	計 25名
3 日程	9：30～9：40 開会(趣旨説明、日程説明) 9：40～10：00 アクティビティ「リフレーミング」 (講義・演習) テーマ 「一人一人のもちあじを尊重した集団づくりに向けて」 講師 大阪多様性教育ネットワーク 共同代表 沖本 和子	
	10：00～12：00 ワークショップ1・2	
	13：00～15：00 ワークショップ3・4	
	15：10～15：50 意見交換・質疑応答	
	15：50～16：00 閉会(まとめ、事務連絡)	



4 事業実施内容(概要)

講義・演習「一人一人のもちあじを尊重した集団づくりに向けて」

- ◆ 決めつけた見方をしていないかな？
  - ・ 2本の線の長さを見比べる。似たような長さ比べをした経験があると、「きつとこうなんだ。」と決めつけて(思い込んで)判断してしまう。子どもたちを見る時にも、決めつけた見方をしていないだろうか？本当はどうなのか確かめてみる、知ろうとすることが大切。
- ◆ グループをつくる(4人または5人)
- ◆ 折り紙を使ったワーク
  - ・ いろいろなものがまざり合うことによって、豊かなものになることを体験を通して学ぶ。
  - 1 グループのメンバーそれぞれが違った色や柄の色紙を選び同じ方向に4等分する。
  - 2 4等分したうちの1枚を出し合う。
  - 3 自分の出したものと違うものを1枚とる。(2と3を3回繰り返す)
  - 4 集まったもので、もう一度正方形を作る。
- ワークショップ1「安心ルール」→ ルールは、そこにいる人が安心するためにある。
  - ① うなずこう：話す側は聴いてくれているか不安。「聴いているよ」というサインを送られると安心できる。「聴く」とは、体全体で相手の気持ちを感じようとする。
  - ② 秘密は守ろう：勝手に他の人に言わないという信頼があるから話せる。
  - ③ パス、OK!：話せないときは無理しなくていい。「なにかまに助けを求めることって大切だよ。」と子どもたちに伝えたい。
- ワークショップ2「もちあじ」 “一人一人のもちあじは宝物”
  - ・ 「もちあじ」とは、その人がもつ独自の性格、特徴、育ってきた環境、経験などいろいろなものがもとになって外に表れてくるもの。よいところさがしではなく、その子から発信されるすべてのものを「もちあじ」として受けとめることが大切。発信したことを受けとめられると安心できる。
- ワークショップ3「気持ちとその表現」
  - ・ いろいろな気持ちや表現スタイルがあることを知る。
  - ・ 自分がどんな気持ちなのかを理解することは意外に難しいもの。だから、自分で上手に表現することが大切。しかし、正しく伝わらなかったり、受け取られ方が間違ったりしてもめごとが起こることがある。そんな時、どのように解決しようか考え話し合うことが大切。
- ワークショップ4「もめごと解決」
  - ・ いじめ問題について、4つの立場(被害者、加害者、[観衆]、傍観者、味方)から考え、話し合う。
  - ・ 「1人でできることは?」「2人、3人と力を合わせたら…」というように考え、話し合う学習を通して、チームで解決していこうという気持ちを育てたい。
- まとめ
  - ・ まず、おとなが今まで当たり前と思っていたことを見直すことから始めたい。
  - ・ 自分がもっているノウハウは周りの人に伝え、チームで取り組む。
  - ・ 多様な子どもたちが目の前にいるという認識を常にもって取組を進めることが大切。



折り紙を使ったワーク



いまどんな気持ち?

5 受講者の感想等

- 学級(学年)づくりの基本は「安心できること」ということを、身をもって学ぶことができた。おとなも子どもも安心できる集団にいられるということは、とても大切だと思った。
- 子どもたちの「もちあじ」を大切にするという考え方はとても共感できるものだった。もちあじが宝物だと捉えられると、それを否定するいじめや差別が間違いだということも入りやすいと感じた。